資料８

「第 14 回県民フォーラム意見報告書」の概要

「水源環境保全・再生かながわ県民会議」では、直接県民の皆様から幅広く意見を収集すること等を目的に「県民フォーラム」を開催してきました。このたび、平成 24 年３月４日に開催した第 14 回県民フォーラムについて、参加者の意見等を取りまとめた報告書を作成しました。

○　第 14 回県民フォーラム開催状況

テ ー マ　相模湖・津久井湖の水源環境を考えよう！
～県域を越えた森林整備・アオコ問題への取組～

日　　時　平成 24 年３月４日（日）　13:00～16:00

場　　所　相模湖交流センター　多目的ホール

参加人数　123 名　（参加者意見 52 件）

○　意見の概要

（１）森林の保全・再生事業に関すること

外国資本による資源地域の土地買収について、具体的にどのような影響が出るのかをシミュレーションし、早期に対策を講ずることが大事である。

（２）水源環境への負荷軽減事業に関すること

相模湖（津久井湖）におけるアオコ発生状況について周知した上で、相模湖集水域における下水処理対策の必要性を認識していただく必要がある。

（３）情報の提供・理解の促進に関すること

水源環境保全・再生施策の取組は、まだまだ県民に理解されていないと思われる。効果的に情報提供する必要がある。

（４）市民活動の支援に関すること

水源環境保全・再生には県民の協力が不可欠である。県民一人ひとりの日常生活における工夫で水源環境保全に貢献できるような情報を、発信していく必要がある。

（５）県外対策に関すること

相模湖（津久井湖）におけるアオコ発生の主な原因は、相模湖周辺のみならず山梨県側から流入する生活排水である。県境を越えて流域一体となって下水道整備や浄化槽の設置促進を図るなど、県外上流域の対策に取り組む必要がある。

（６）その他

ア　水源環境保全税が有効に使われているのか否か、水源環境保全・再生事業の事後並びに事前評価が検討できる仕組みづくりが必要だと思う。

イ　県境を越えて流域一体となって、水源環境保全・再生施策を長期にわたる継続的な取組が必要である。

平成24年５月30日

神奈川県知事　黒岩　祐治　殿

水源環境保全・再生かながわ県民会議座長

平成23年度　第14回県民フォーラム意見について（報告）

当県民会議では、平成23年度に水源環境保全・再生かながわ県民フォーラムを２つの地域（第13回：県全域（大規模フォーラム）、第14回：相模原地域）で開催し、県民への水源環境保全・再生施策の周知とともに幅広い県民からの意見収集に努めてきました。

このたび、平成24年３月４日に開催した第14回県民フォーラムの概要並びに収集した意見を別添のとおり取りまとめましたので報告します。

知事におかれましては、当報告書の県民意見を水源環境保全・再生施策に反映させることについてご検討いただくとともに、質問事項については県民会議を通じて回答してまいりますので、県としてのご回答をお願いします。

第14回

県民フォーラム意見
報　告　書

（案）

平成23年度

平成24年５月

水源環境保全・再生かながわ県民会議

平成23年度　第14回県民フォーラム意見について

1　はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」（以下「県民フォーラム」という。）は、水源環境保全・再生の取組について、県民の意見を幅広く収集するとともに、水源環境保全・再生に係る情報の提供・発信等を目的に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」(以下「県民会議」という。）が開催するものである。

平成19年度から平成23年8月までに、県内13箇所において県民フォーラムを開催したところである。参加者からの意見を取りまとめ、知事に対して報告を行い、県から報告に対する回答を受けている。

このたび、平成24年３月４日に開催した第14回県民フォーラムについて、参加者からの意見を取りまとめ、知事に報告するものである。

2　平成23年度　第14回県民フォーラムの結果概要

第十四回	テーマ	相模湖・津久井湖の水源環境を考えよう！ ～県域を越えた森林整備・アオコ問題への取組～
	日時	平成24年3月4日（日）13：00～16：00
	会場	相模湖交流センター　多目的ホール
	企画責任者	井上伸康　北村多津一　木下奈穂　倉橋満知子
	参加者数	123名
	意見数	52件
	内容	○基調講演「アオコが消えた諏訪湖に学ぶ」 信州大学山岳科学総合研究所教授　花里　孝幸 氏 ○水源環境保全・再生施策の事業説明　ＤＶＤの上映 ○第２期かながわ水源環境保全・再生 実行５か年計画の説明　神奈川県職員 ○パネルディスカッション コーディネーター　埼玉大学大学院理工学研究科教授　淺枝　隆 氏 （県民会議委員） パネリスト　信州大学山岳科学総合研究所教授　花里　孝幸 氏 相模原市議会副議長　野元　好美 氏 桂川・相模川流域協議会 さがみはら地域協議会代表　有井　一雄 氏 山梨県北都留森林組合参事　中田　無双 氏

３　県民フォーラム意見

第14回県民フォーラムにおける個々の意見内容は資料（３ページ～５ページ）のとおりである。

このフォーラムには、県担当部局職員も出席し、議論に参加していただいているものであるが、これらの意見の中で県民会議として受け止め、特に重要な事項を項目ごとに次のとおり整理したので、県施策への反映を検討していただきたい。

また、個別意見の中で、参加者から回答希望のある質問については、県民会議を通じて回答するので、県民会議へご回答くださるようお願いしたい。

なお、意見ごとの末尾にある番号は、資料記載の個別意見番号となっているので参照願いたい。

（１）森林の保全・再生事業に関すること

外国資本による資源地域の土地買収について、具体的にどのような影響が出るのかをシミュレーションし、早期に対策を講ずることが大事である。（4）

（２）水源環境への負荷軽減事業に関すること

相模湖（津久井湖）におけるアオコ発生状況について周知した上で、相模湖集水域における下水処理対策の必要性を認識していただく必要がある。（7・12・15）

（３）情報の提供・理解の促進に関すること

水源環境保全・再生施策の取組は、まだまだ県民に理解されていないと思われる。効果的に情報提供する必要がある。（20）

（４）市民活動の支援に関すること

水源環境保全・再生には県民の協力が不可欠である。県民一人ひとりの日常生活における工夫で水源環境保全に貢献できるような情報を、発信していく必要がある。（22）

（５）県外対策に関すること

相模湖（津久井湖）におけるアオコ発生の主な原因は、相模湖周辺のみならず山梨県側から流入する生活排水である。県境を越えて流域一体となって下水道整備や浄化槽の設置促進を図るなど、県外上流域の対策に取り組む必要がある。（30・31）

（６）その他

ア　水源環境保全税が有効に使われているのか否か、水源環境保全・再生事業の事後並びに事前評価が検討できる仕組みづくりが必要だと思う。（37・38）

イ　県境を越えて流域一体となって、水源環境保全・再生施策を長期にわたる継続的な取組が必要である。（45）

第14回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（相模原地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
1	森林整備等関連項目	（行政担当者への質問） 【間伐事業実施の苦労・工夫・今後について】 　間伐事業地のとりまとめは、小規模林家が多く、施業に関心のない人が多い中、大変苦労があろうかと思いますが、具体的な苦労、課題点、それに対する工夫点、及び今後改善していきたい点について教えて下さい。		有
2		（行政担当者への質問） 【森林の保全・再生関係事業】 　人工林の荒廃は66%→24%とあるが、どのような評価方法ですか？		有
3		（行政担当者への質問） 【森林の保全・再生関係事業】 　間伐材の搬出について「補助金」はどのように出ているのですか？		有
4		（行政担当者への質問） 【外国資本による水源地域の森林原野等の買収について】 　昨今非常に危惧されている外国資本による上記買収について、神奈川県としてどのように認識しているか？どのようなスタンスを取るつもりかお聞きしたい。	(1)	有
5	水源環境への負荷軽減	（コーディネーター淺枝氏への質問） 【各湖の土砂の増え方、量、質などについて教えて下さい】 　湖の深さがどの位のスピードで浅くなっているのかや、その原因となる要因を教えて下さい。		有
6		（コーディネーター淺枝氏・パネリスト野元氏への質問） 【ダムの再生、水質改善、地域過疎化対策】 　ダムは老朽化し水質も万全ではありません。ダム周囲は過疎化が進んでいます。私の考えを話させていただきます。「相模湖の中央部に大湿原をつくる計画」です。利点は多々あります。一度話を聞いていただきたいと思います。 　相模湖町住民（これ以降、住所・氏名・電話番号が記載されている）		有
7		（パネリスト花里氏への質問） 【アオコ対策、下水処理場の水処理対策について、ダム湖に入れないことに関して】 　アオコ対策として、下水処理場に入った水が、相模湖に入らないようにする対策について、諏訪湖での実績を踏まえ、（効果について）もう少し具体的にお話しして下さい。	(2)	有
8		（パネリスト花里氏への質問） 【相模湖のアオコ減少のポイントは何と考えますか】 　相模湖は深く、流れもあるのに、アオコが多く発生するのはなぜなのでしょうか？ 　総合的、長期的調査、対応が必要なのでは。		有
9		（パネリスト花里氏への質問） 【アオコの発生している相模湖・津久井湖】 　堆積物、何m積もっているのか。		有
10		（パネリスト花里氏への質問） 【下水処理した後の水の扱いについては…】 　相模湖集水域の生活排水は下水処理した後も相模湖に流し込むことになりますが、アオコ減少の効果はどうでしょうか？		有
11		（パネリスト花里氏への質問） 【水質を変えること、アオコをなくすことについて】 　すべてこれで済むという訳ではありませんが、ＥＭ菌を使うという効果はどうですか？ 　ＥＭ菌活用について教えて下さい。		有
12		（パネリスト花里氏・野元氏への質問） 【県民がやるべきことは？】 　「税による対策には限界がある」とのことですが、県民１人１人がアオコ対策のためにどのようなことを意識し、生活の何を変えるべきとお考えなのか、具体的に教えて下さい。	(2)	有
13		（パネリスト野元氏への質問） 【合成洗剤への対応】 　リンの最もの理由は合成洗剤なのは明らかである。行政としての取組は？		有
14		（パネリスト野元氏・行政担当者への質問） 【生活排水の改善】 　生活排水の処理方法に下水道・合併処理浄化槽があるが、下水道・終末処理場での脱リン・脱チッソは施設改修にて可能ですが、脱リン・脱チッソ合併処理浄化槽は大変高価であります。相模原市での高度処理浄化槽普及の取組を聞かせて下さい。		有
15		（行政担当者への質問） 【相模湖、津久井湖の水質向上対策について（キーポイントは何なのかの究明）】 ①諏訪湖の例のように、相模湖（津久井湖）でも水質の調査、対応を学問的、総合的に行い、アオコ等々の原因、対応を検討したらどうでしょう。 ②水源環境税から、この調査、対策に資金を充てて、長期的、総合的に対応したらどうでしょうか？ ③山梨県と一緒に対応チームを作って、沿岸の住民を巻き込んだ調査・研究を推進したら？	(2)	有

第14回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（相模原地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
16	水源環境への負荷軽減	アオコの大量発生に関して、結局どのような実害があるのか。（お金、手間をかけてでも）水質浄化させようとする根拠・理由は何か。		有
17		温暖化による影響もあるとのことだが、温暖化や地質由来などの対応できない要因はやむを得ない現象であるため、生活排水対策や施肥抑制、森林の維持管理、下水道の高度処理化といった発生源対策を第一に進めるとともに、河川、湖沼の直接浄化技術の導入や新技術開発、インベントリー調査や詳細モニタリングに力を入れて下さい。		無
18		境川のすぐ近くに住んでいますが、昭和56年に越してきた頃は、生活排水が流れ込み、アワがわんさと交ざっていました。洗剤（特に洗濯用）、それも洗剤製造で改良されたせいか、アワがなくなり鯉が住んでいます。やればこのようにきれいになるのにと思いました。		無
19	情報提供・啓発	今日見たＤＶＤを県のＨＰよりダウンロード可能にしてほしい。 セミナー等で使い、普及啓発に使いたい。		有
20		水源環境保全税のＰＲ、発信をもっとしたら。 （金額、負担額、使われ方、効果、問題…等々について）	(3)	無
21		理解を深めるため、フォーラムを年３回くらい（本年は２回）開催してほしい。		無
22	市民活動支援	環境を保全するには市民の協力が不可欠と思いますが、できるだけ大勢の人に身近な環境に対する関心を持ってもらうためには、どのようなことが有効か、お考えをお聞かせ下さい。	(4)	有
23	県外対策	（コーディネーター淺枝氏への質問） 【富士北麓浄化センターでのＰ・Ｎ除去策を神奈川県ではなぜ検討しないのか？】 桂川への放流も多く（20,000トン／日）、放出Ｐ・Ｎの総量も多いのではないのか？		有
24		（コーディネーター淺枝氏への質問） 【発電用導水管中の水の浄化（Ｐ・Ｎの除去）対策は？】 富士吉田市で取水された上記の水は、何の処理もなく上野原市で桂川に放流されている。		有
25		（パネリスト中田氏への質問） 【上流域対策としての協働について】 第１期ではできなかった上流域対策として桂川流域との協働として事業費が投入されますが、森林整備事業に関わっておられる中田様にとって、期待されていること、課題として考えることがありましたらお聞かせ下さい。		有
26		（パネリスト中田氏への質問） 【木を消費、具体的には？】 簡単に家を建てられません。 例）割りばしとか具体的に木を消費する内容を示して欲しい。		有
27		（パネリスト中田氏への質問） 【山梨県の取組について】 現状の森林状況や川の汚染状況に対して山梨県単独のこれまでの対策について、一県民としての感想をお聞かせ下さい。		有
28		（パネリスト中田氏への質問） 【山梨県の取組について】 今後、両県は共同で水源林に関わろうとしていますが、山梨県も水源保全税は徴収しているのでしょうか？		有
29		（パネリスト中田氏への感想） 中田無双さんの提案、林業の件、同感します。		有
30		（行政担当者への質問） 【上流域（山梨地域）での成果と今後の対策】 県境を越えた水質保全に取り組んでいるが、相模川水系は山梨県民の生活の仕方に大きな影響を受けることになっています。そこでこれまでの上流域での（山梨地域）水源保全に対する対策の効果は？今後の実行５か年計画での具体的な対策はどのような方法になりますか。	(5)	有
31		”水をきれいに”活動の根本（幹）の一つは、汚水（生活排水等）の川への流入を防止することである。 …上流域（山梨県、神奈川県相模川上流域）で遅れている生活排水の浄化（下水道化、浄化槽etc.）への補助促進を図るべき。浄化率90%以上を目指すべき。→山梨県への補助も考慮すべき。アオコ（シンボリック）の問題は枝葉の話なり。	(5)	有
32		流域の交流（県民会議、教育、市民）		無
33	その他（回答希望ありの意見）	（パネリスト野元氏への質問） 【諸施設のモニタリングについて】 相模原市は神奈川県の中では水源環境に関わる施策が多くとられると思います。県民会議のメンバーがモニタリングされていますが市町村行政の責任も大きいと考えますので、相模原市議会としてこれまでどのように対応されたか、今後はどのように取り組まれるか聞きたい。		有

第14回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（相模原地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
34	その他（回答希望ありの意見）	（パネリスト野元氏への質問） 【湖の漁業について教えて下さい】		有
35		（パネリスト野元氏への質問） 【水田が多く休耕田となっているがこの対策】 大きなダムに相当する水田が休耕となっている。これへの対応は？		有
36		（パネリスト有井氏への質問） 流域協議会の活動、長く続いていること、良く知ってます。やっとここまできましたね。その感想は。		有
37		「水源保全・再生」事業 …事業の事後並びに事前チェックを充実すべき。本事業の成果が形骸化し真の成果になっていないムダがあるのでは。税使用の目的に完全にフィットさせよ。	(6)ｱ	有
38		毎年約40億円の税金がどのように生かされているのでしょうか。経済が回るような仕組みを作らねば、持続的な環境保全・社会は維持はできないと思います。その仕組みを県は、如何しているか教えて下さい。	(6)ｱ	有
39		沼本ダム（相模ダムと津久井ダムの中間）から、川崎市に相当量の水が相模原市経由で送られています。その水の現在の処理状況を教えて下さい。		有
40		相模湖の”しゅんせつ”について …しゅんせつの「土砂石類」の放射線濃度の調査（測定）についての見解は？ （水のいわゆる「都市濃縮」として相模湖・津久井湖etc.のベクレルは基準外になる可能性あり。丹沢山塊への放射能汚染はやや多い。）		有
41		職場の植木鉢、プランター等、水やりの下水道は使ってないですが、使用料金はどのようになっていますか。		有
42		相模湖は河（河川法）です。諏訪湖は湖（湖沼法）です。なぜ、相模湖で諏訪湖の話が出るのでしょうか。		有
43	その他（回答希望なしの意見）	水源環境保全税の使われ方が知られていない。		無
44		船上見学は寒くて大変でしたが、それなりに良かったです。 アオコ解消への道のりは遠い…と痛感しきり。		無
45		１．保全・再生には長期に渡る継続的な取組が必要なこと、２．神奈川県民だけでなく山梨県・静岡県の上流域にまたがる県境を越えた対策が必要なこと、が大事であると理解しました。	(6)ｲ	無
46		県内各地域ごとに里山を守るために行動を起こすことが必要だと思う。どうしたら自分の問題として捉えることができるか。この意識を高めることこそが大切だと思う。 この先、温暖化とか予想できないことにも対応できると思う。このフォーラムに参加し感じたことをどう県民が共有できるか？		無
47		４人のパネリストの視点がいろいろであり正解というものではないが興味深かった。特に、今後の人口減も含んだ社会システムの変化による施策の見直しも必要になってくるのではという指摘は共感を覚えた。		無
48		パネリストがそれぞれ自分のフィールドを持っていることが良い雰囲気をつくったと思います。 水源に関わっている方は皆さんまじめですね。		無
49		【人間の意識と環境への関わり】 これは花里先生のお話を聞いた感想です。 アオコの発生と農地の野菜が育つことが同義であること、言われてみればその通りです。人間の価値観の矛盾もうなずける話でした。とどのつまりは責任ある知見を元にした「地域の合意形成」がキーとなるのでしょう。地域の暮らす住民の一人として、この合意形成に少しでも参画していきたいと思います。		無
50		パネリスト野元氏の話は体系的な整理が的確でわかりやすく好感を持てた。 パネリスト有井氏のお話はテーマ設定が限定的で少し全体テーマとの関連では難ありの感想です。		無
51		有井さんの話で極めてしっかりしたフォーラムになった。		無
52		県からの説明、ＤＶＤ、パワーポイント共にわかりやすかったです。パワーポイントは、以前はグラフが詰め込まれていてわかりにくかったのですが、大きく改善されたと感じました。 パネルディスカッションがとても面白かったです。		無

水源環境保全・再生かながわ県民会議　活動結果報告

平成 24 年３月４日に開催した「第 14 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（相模原地域フォーラム）」の内容は次のとおりでした。

名　　称	第 14 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（相模原地域フォーラム）		
テ ー マ	相模湖・津久井湖の水源環境を考えよう！～県域を越えた森林整備・アオコ問題への取組～		
企画運営委員	井上伸康　北村多津一　木下奈穂　倉橋満知子		
開催日時	平成 24 年３月４日（日）13:00～16:00		
開催場所	県立相模湖交流センター		
出 席 者	堀場勇夫（※１）、淺枝隆（※２）、井伊秀博、井上伸康、片山幸男、加山俊夫（代理出席）、北村多津一、木下奈穂、久保重明、倉橋満知子、木平勇吉、小林信雄、高橋弘二、髙橋二三代、増田清美　　※１　主催者あいさつ　※２　コーディネーター		
参 加 者	１２３名	意 見 数	５２件
報 告 者	井上伸康		

内　　容

１．主催者あいさつ　堀場座長

堀場座長

○県では、水源環境の保全・再生を目的として、「施策大綱」と第１期の「実行５か年計画」を策定し、個人県民税の超過課税（水源環境保全税）を財源として、特別の対策に取り組んでいる。
○第１期は今年度で終了し、来年度からは第２期の取組が実施される。第２期では、本フォーラムのテーマである相模湖・津久井湖に関係する事業として、県外上流域において水源環境保全税を活用した事業を、神奈川県と山梨県が共同して実施するなど、新たな取組が行われる。県民会議は県とともに車の両輪となって取組を推進していく。

２．基調講演「アオコが消えた諏訪湖に学ぶ」
信州大学山岳科学総合研究所教授　花里　孝幸

花里氏

○諏訪湖では 70 年代からアオコが大発生していたが、その後の対策により今ではアオコが消えた。水質浄化に成功した初の事例である。
○集水域から湖に流入する窒素・リンが湖を汚す要因となる。諏訪湖は湖面積 13.3 ㎢に対し、集水域面積は 532 ㎢と大きく、地理的に汚れやすくなる性質を持っている。相模湖も湖面積 19.6 ㎢に対し、集水域面積は 1,128 ㎢と圧倒的に大きく、同様の環境にある。
○そもそも窒素・リンの増加はなぜ悪いのか。植物プランクトンが増殖するためには炭素を中心に色々な物質が必要になる。光合成により増殖する際にこれらの物質を取り込むが、必要な物質が不足すると増殖できなくなる。この不足する物質が窒素とリンである。しかし、富栄養化の状態では窒素・リンが供給され、さらに増殖することができる。植物プランクトンが死滅し分解される際に、酸素不足や硫化水素の発生を伴い、水は腐敗し臭くなる。
○窒素とリンが湖に入らないようにすることが重要であり、そのためには集水域にある家庭や事業所からの排水が湖に入らないようにする必要がある。諏訪湖では 79 年に下水処理場を建設するとともに２本の導水管を敷設し、下水道の処理排水を湖に入れず天竜川に放流するようにした。下水処理場の処理排水のリンの濃度は、諏訪湖の全リン濃度の 10 倍以上になっているため、諏訪湖に放水してしまうと植物プランクトンが光合成により増殖し、水質悪化を引き起こす。
○下水道の接続率の上昇に伴い、集水域から諏訪湖に流入する全リン量と湖水中の全リン濃度は減少し、2001 年には環境基準の 0.05mg/L 以下を達成した。一方、アオコの発生量や湖面の透明度は下水処理場の建設以降 20 年ほどは大きな改善は見られなかったが、99 年にアオコの発生が突然激減した。
○アオコの発生量は、窒素やリンの濃度に逐一反応して変化しているわけではない。湖内には生態系のバランスが保たれていて、何らかのインパクトが起こるとこのバランスが崩れ突然環境が変化する。こうした変化をレジームシフトというが、これが 99 年に起こり諏訪湖のアオコは突然激減した。
○諏訪湖での事例からわかるように、窒素・リンを減らす努力が必要であるが、すぐには結果が出てこない。10 年・20 年・30 年と要するかもしれない。息の長い活動が必要である。
○水質浄化による影響は必ずしも良いことばかりではない。諏訪湖でもワカサギの漁獲量の減少というマイナスの影響もある。環境問題には必ず「あちら立てればこちらが立たず」ということが起こる。諏訪湖というひとつの生態系を多くの人々が異なった目的（漁業、観光、水道水源地など）で利用しているため、望ましい諏訪湖の生態系の姿は異なる。それぞれの立場を理解し、相談し、妥協し、協力して行動する必要がある。そのためには、生態系変化の将来予測を行い、対策を立てる必要がある。

３．水源環境保全・再生事業の取組紹介と「第２期実行５か年計画」の説明

第１期の取組と成果をまとめたＤＶＤの上映と、「第２期実行５か年計画」の説明を行った。

４．パネルディスカッション

コーディネーター	埼玉大学大学院理工学研究科教授	淺　枝　　　隆
パ ネ リ ス ト	信州大学山岳科学総合研究所教授	花　里　孝　幸
〃	相模原市議会副議長	野　元　好　美
〃	桂川・相模川流域協議会さがみはら地域協議会代表	有　井　一　雄
〃	山梨県北都留森林組合参事	中　田　無　双

内　容（続き）	

【ダム湖の水源環境をどのように捉えているか？】

（野元氏）

○アオコの発生、ダム湖に浮かぶ流木やゴミなど、多くの課題がある。ダム湖の水源環境は私たち人間の意識や生活を映す鏡であり、これを変えることは私たちの暮らしを見つめ直すということである。

（有井氏）

○相模湖・津久井湖の水源地は、上流域の山梨県にある。富栄養化の原因となる窒素・リンの多くも山梨県から流入してきたものである。

コーディネーター
（淺枝委員）

（中田氏）

○相模湖に流れる水は山梨県から流れてきており、その水は山梨県の森林で育まれたものである。神奈川県民も山梨県の森林にぜひ関心を持ってもらいたい。これまで森林計画や制度など県境の壁があったが、これからは県境を越えて流域がひとつになって問題解決に取り組むべきである。

（花里氏）

○下水処理場は完璧ではない。下水処理場で処理された水がアオコ発生の原因にもなる。できれば下水処理場の排水がダム湖に入らないような仕組みができると良い。

パネリスト
（左から花里氏、野元氏、有井氏、中田氏）

【ダム湖の水源環境に関する県の取組の成果と課題】

（野元氏）

○水源環境保全税を活用した取組は、水源を意識させるカンフル剤の役割を果たしている。また、水源地域における直接的な問題の解消に大きな効果をあげている。しかし、アオコ対策には本質的な問題の解決が必要である。流域という考え方が大切であり、上流に位置する山梨県の対策が必要である。

（有井氏）

○第１期の５年間における相模湖・津久井湖のアオコ対策はあまりにも不充分であった。また、エアレーション装置による対策は対症療法に過ぎない。直接浄化対策事業の効果も、相模湖・津久井湖では期待することはできない。アオコ発生の抜本的対策は県外上流域対策以外にはあり得ない。

（中田氏）

○第１期での県外上流域の人工林調査結果により、約６割の森林が荒廃林であることがわかった。第２期では神奈川県と山梨県が共同して県外上流域の森林整備に取り組んでいく。山梨県でも４月から森林環境税が導入される。手入れの遅れた森林の整備について、県境を越え取り組んでいきたい。

（花里氏）

○湖の環境改善のために何か実行すると、生態系が変わり、別のところで問題が生じるかもしれない。こうしたことを予測しながら、社会システムを変えていくことが必要となる。

【水源環境保全・再生への提案】

（野元氏）

○流域を意識して生活することが必要である。子どもたちが流域を体感できる教育プログラムの作成、多くの人が山や水の再生に参加できる仕組みづくり、社会システムの変革が必要がある。

（有井氏）

○神奈川県民が神奈川県民のために水源環境保全税を使い、県外上流域の生活排水対策として富士北麓浄化センターと桂川清流センターの高度化、高度処理型合併処理浄化槽の普及に努める必要がある。

（中田氏）

○流域の森林から出てくる間伐材、流域材を積極的に消費してもらいたい。木を使うことが森を守る。木材を消費することにより持続可能な循環型社会を流域の中で作っていきたい。

（花里氏）

○上流域の方々と相模湖周辺の住民の間で頻繁に話し合う機会を持ち、問題意識を共有し、お互いの立場を尊重しながら問題解決について取り組むことが大切である。

第14回県民フォーラム企画運営委員の感想

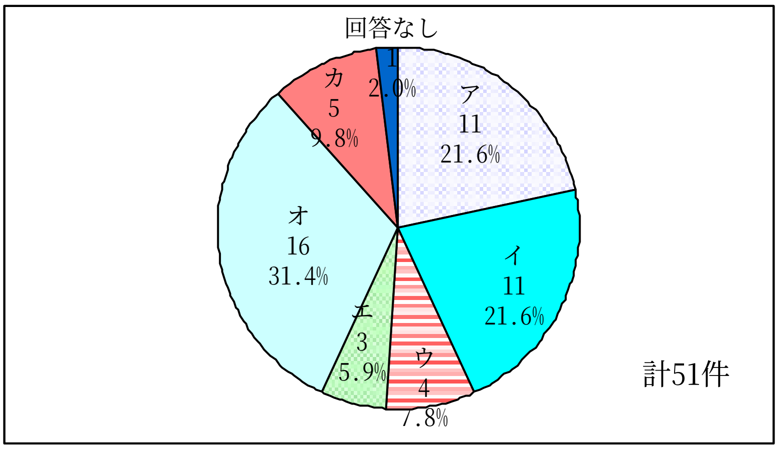
井上　伸康	アオコ解消の対策は上流等から流入する窒素、リンを除去する以外に対策はないということをフォーラムを通じて再確認した。上流処理場でアオコ解消対策が始まろうとしているが、アオコ解消のために水源税を最大限活用し、最優先に取り組むべき課題だと痛感した。
北村多津一	初めての試みとなる「船上見学」は、相模湖の現状を知るうえで良い企画であったと思います。また、事業取組紹介のＤＶＤは一般参加者向けに分かりやすく作られていました。バネルディスカッションのテーマは、新たに行われる山梨県との共同、相模川水系上流域対策との関連性がありましたので、タイムリーでした。課題としては、やはり総体的に参加者が少ないため、フォーラム自体が情報提供・普及啓発の手段として有効かを再考すべき時期だと思います。
木下　奈穂	今回は机上の話のみならぬ「現場を見るフォーラム」の初の試みとなりました。船上見学は参加者の理解を深める良い効果があったと思います。アオコやエアレーションの時期にまた同様に開催できれば尚よいかと思います。また、参加者は団塊世代に偏る傾向がありますが、今回は託児を設けたことで、子育て世代の参加も促す試みの第１歩が踏み出せて有意義であったと思います。
倉橋満知子	寒くて遠いという環境のなか、100名以上の参加があったことは先ずは担当者として良かったという一言です。また、船上見学も予定参加者が全員参加したこと、当日の参加者も数名いて、56名が見学できたこともみなさんの協力のたまものと感謝いたします。フォーラムでは花里先生の専門的な内容が理解しやすかったことに加え、浅枝先生の短時間でのアオコのメカニズムに関する話が流れを加速してパネルデイスカッションを興味深くしていたことが、印象的でした。また、全く立場の違うパネリストが其々の主張することが違和感なく進行されていたことも全体の雰囲気を良くしていたように感じます。惜しむらくは有井さんの原稿読みをもう少し自分の言葉で話されたら良かったと思います。

第14回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
アンケート集計結果

今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

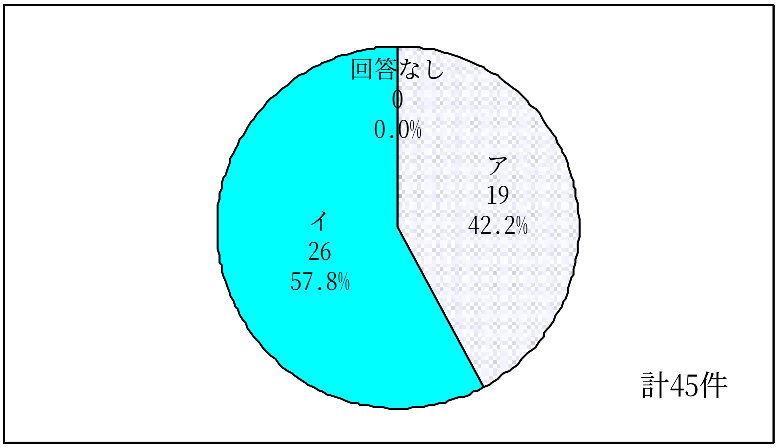
○　回収したアンケート…45枚
○　今後、水源環境保全・再生に関する情報提供を希望する方…16名

Q１　本日のフォーラムのことをどのようにして知りましたか。（一部複数回答あり）
ア　県のたより　　イ　公共機関での配布物　　ウ　県のホームページ
エ　駅のポスター　　オ　所属する団体を通じて　　カ　その他

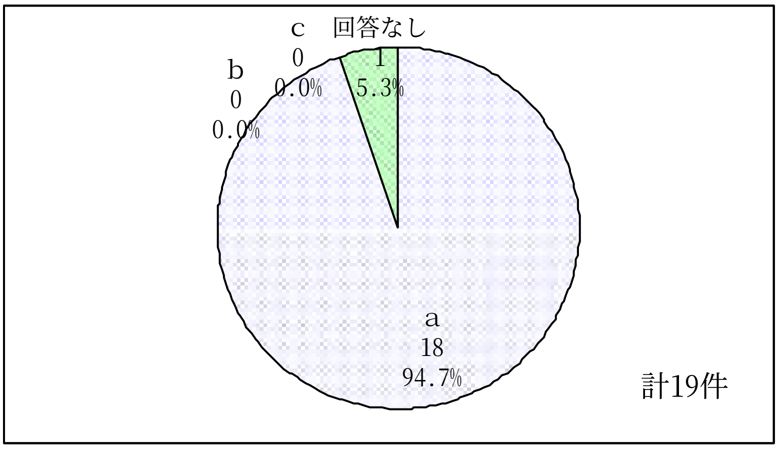


エ　駅名
・橋本駅
・倉見駅
カ　その他の主な内容
・神奈川新聞
・県民会議委員
・案内が送られてきました。

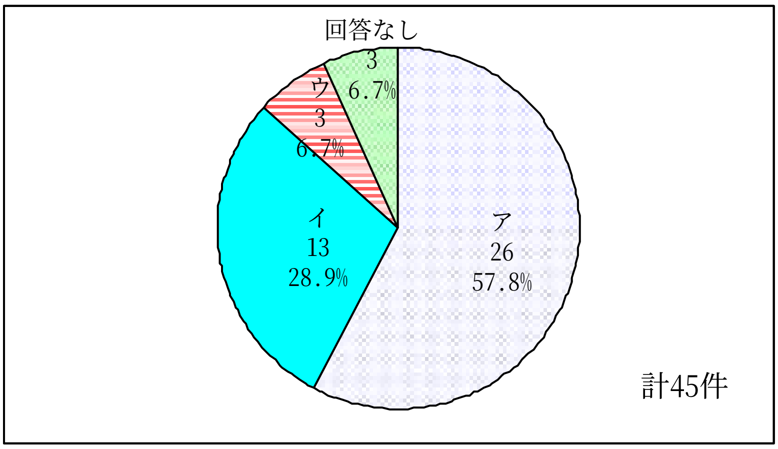
Q２　午前中の「相模湖船上見学」には参加されましたか。
ア　参加した　　イ　参加しなかった



Ｑ２－２　船上見学はいかがでしたか。
ａ　有意義だった　　　ｂ　どちらでもない　　　ｃ　必要ないと感じた



Ｑ３　今回のフォーラムはいかがでしたか。
ア　良かった　　　イ　普通　　　ウ　改善が必要



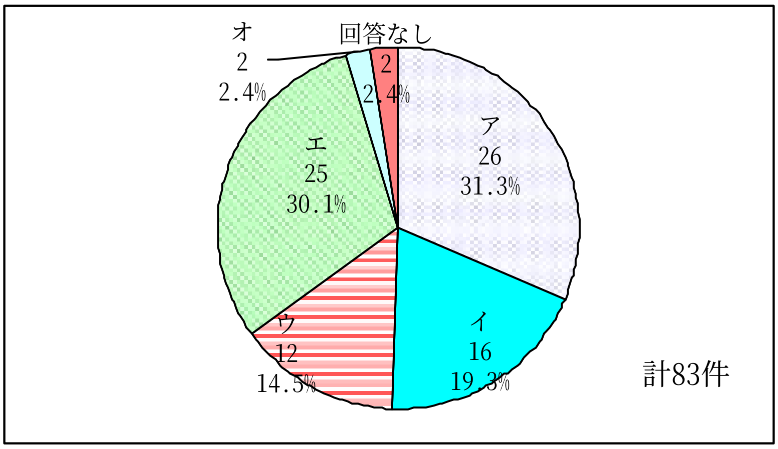
主な理由

ア
- ・アオコの神奈川県の実態と諏訪湖での対策が理解できた。
- ・「県域を越えた」の意味がよく分かりました。
- ・専門的な用語の説明もあり、そういった知識があまりなくても理解できたから。

イ
- ・参加者が少ない。

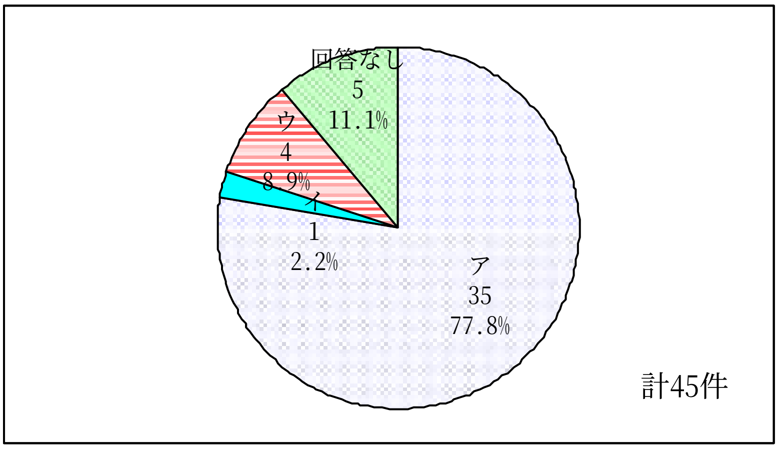
ウ
- ・参加者を増やす事を考えては？若い人が興味を持てるイベントが必要。
- ・フォーラム開催のＰＲ方法。

Ｑ４　今回のフォーラムで良かった内容はどれですか。（複数回答可）
ア　花里教授の基調講演　　　イ　事業取組の紹介(DVD上映)　ウ　第２期計画の説明
エ　パネルディスカッション　オ　その他



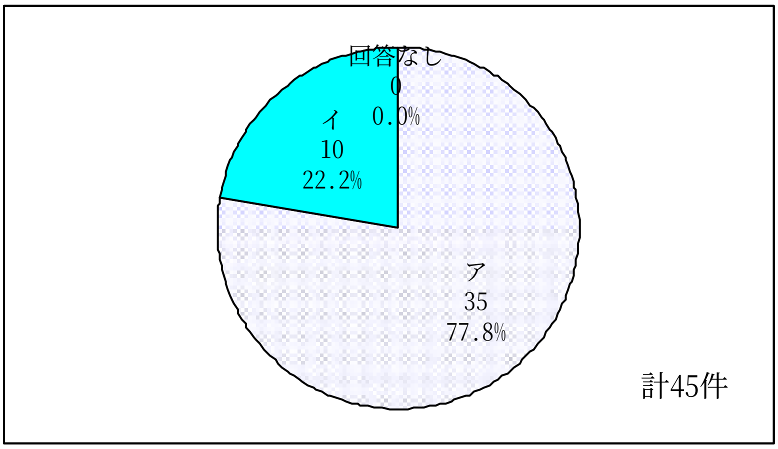
オ　その他の主な内容
- ・有井さんの整理された問題提起が良かった。
- ・全く的外れなフォーラムでがっかりしました。

Q５　今回のフォーラムを通じて水源環境を守る取組に興味・関心がわきましたか。
　　ア　わいた　　　イ　わかなかった　　　ウ　その他

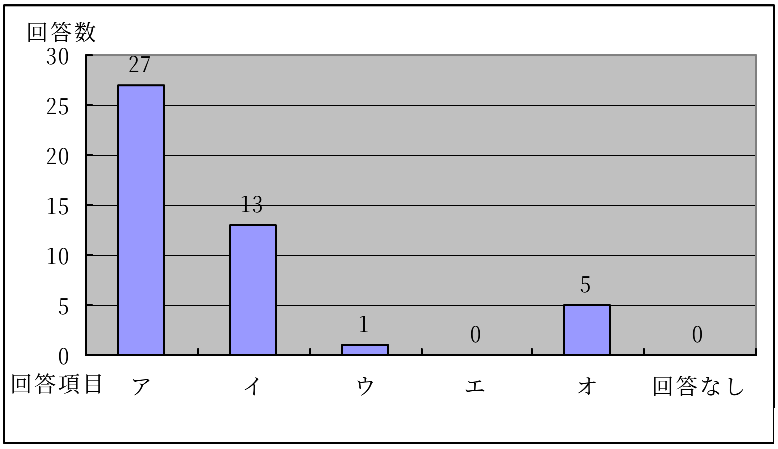


ウ　その他の主な内容
・以前から関心を持っている。
・県民会議委員として参加している。
・全部駄目でした。遠方から参加して時間と費用が無駄になり、腹立たしくなりました。

Q６　「水源環境保全税」を以前から知っていましたか。
　　ア　知っていた　　　イ　知らなかった



Q７　水源環境保全税を活用した水源環境保全・再生事業は今後どうしていくべきだと思いますか。（一部複数回答あり）
　　ア　さらに拡充すべき　　　イ　現状維持　　　ウ　縮小すべき
　　エ　廃止すべき　　　　　　オ　その他



オ　その他の主な内容
・効果が県民によくわかるようにすべき。
・まずは第２期をスタートさせる。
・人為的に作られた県境が起こす水質問題は県境を越えて解決していかなければならない。
・発展的に。対症療法的でなく、より根本的な方向へ。
・上流（生産）～中流（製材、加工）～下流（流通、消費）がバランス良く向上、発展しなければ解決できません。

計46件

第14回
水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
平成24年3月4日（日）

相模湖・津久井湖の水源環境を考えよう！
～県域を越えた森林整備・アオコ問題への取組～

県民フォーラム

- 基調講演
  「アオコが消えた諏訪湖に学ぶ」
  花里 孝幸（信州大学山岳科学総合研究所教授）
- 水源環境保全・再生事業の取組と成果
  第２期実行５か年計画について
- パネルディスカッション
  コーディネーター
  淺枝　隆（埼玉大学大学院理工学研究科教授）
  パネリスト
  花里 孝幸（信州大学山岳科学総合研究所教授）
  野元 好美（相模原市議会副議長）
  有井 一雄（桂川・相模川流域協議会
  さがみはら地域協議会代表）
  中田 無双（山梨県北都留森林組合参事）

時間：13：00～16：00（開場12：30）
会場：県立相模湖交流センター（地図参照）
定員：200名（当日受付）
主催：水源環境保全・再生かながわ県民会議
同時手話通訳
保育サービスあり（満2才～就学未満）　※要事前連絡

相模湖船上見学

遊覧船「スワン丸」で相模湖見学

参加費無料

受付：１０：３０～
出発：１１：００　４５分間の見学
集合：県立相模湖公園（地図参照）
お申込み：２月27日（月曜必着）までに
①催し名「相模湖船上見学」 ②住所
③氏名　④電話番号　を明記の上、
下記「お問い合わせ」先まで、はがき、
ＦＡＸまたは[illegible]
込み下さい。
定員：100名
※申込者多数の場合は抽選

県立相模湖公園
県立相模湖交流センター
JR中央本線「相模湖駅」
下車　徒歩10分

※お車でお越しの際は駐車料金が発生します。

【お問い合わせ】
神奈川県　水源環境保全課
住　所　〒231-8588　横浜市中区日本大通１
電　話　045（210）4352
ＦＡＸ　045（210）8855
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ「かながわの水源環境の保全・再生をめざして」
http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/

出演者を紹介します

★コーディネーター★

浅枝　隆（あさえだ　たかし）
埼玉大学大学院
理工学研究科教授

工学博士。東京大学工学部助教授、埼玉大学工学部助教授などを経て2000年より現職。専門は応用生態工学、環境水理学。現在の研究分野は、河川や湖沼の生態に関する研究。砂州の草本化や樹林化の機構の解明、大型水生植物や付着藻の生長と分解過程、物質循環への役割、河川上流部の有機物収支、動植物プランクトンや魚等の生態解析に従事。「水源環境保全・再生かながわ県民会議」施策調査専門委員会委員。

★パネリスト★

花里　孝幸（はなざと　たかゆき）
信州大学山岳科学
総合研究所教授

1957年東京都江東区生まれ。1980年千葉大学理学部を卒業後、国立公害研究所（現：国立環境研究所）研究員。1995年より信州大学理学部教授。職場は諏訪湖畔にある理学部附属諏訪臨湖実験所。以来、諏訪湖の生態系の研究を進める。専門は湖の動物プランクトンの生態学。臨湖実験所はその後改組され、現在は信州大学山岳科学総合研究所の一部門となっている。

野元　好美（のもと　よしみ）
相模原市議会
副議長

相模原市緑区（旧藤野町）在住。藤野町議会議員（１期）を経て、相模原市議会議員２期目。現在、副議長を務める。水源地域対策特別委員会の設置をはじめ、森林ビジョンの策定、残土条例の制定、鳥獣害被害対策、市町村設置型の高度処理合併浄化槽設置などを提案。水源地の環境保全と活用に積極的に取り組む。また、トランジション藤野の仲間とともに、森林の再生と活用、エネルギーの地産地消に挑戦中。

有井　一雄（ありい　かずお）
桂川･相模川流域協議会
さがみはら地域協議会代表

桂川・相模川流域協議会の発足準備から参加。協議会とともに15年にわたり活動を続ける。現在は、相模川で絶滅が最も危惧されるカワラノギクの保全活動に没頭する毎日である。2000年から2010年まで旧津久井町の自然調査に関わり、甲虫類全般を担当。旧津久井町の里山から丹沢の稜線までを自ら歩き、2600種の甲虫の棲息を確認。旧津久井町一帯の自然の豊かさを実感する。現在、昆虫類全体を対象に「津久井町の昆虫Ⅲ」として総まとめの作業に入っている。

中田　無双（なかだ　むそう）
山梨県北都留森林
組合参事

1967年東京都生まれ。日本大学国際関係学部卒。森林インストラクター。認定NPO法人JUON（樹恩）NETWORK理事。
紀伊国屋書店営業職を経て、2002年４月にＩターンの技能職員として北都留森林組合へ就職。「森を中心とした持続可能な循環型社会の実現」と「村おこし」をＩターンとして都会と山村の両方の目（価値観）から実現することをライフワークとしている。

（敬称略）

相模湖船上見学参加申込書　2月27日（月）必着	
氏名（ふりがな）	電話番号

FAX　045―210―8855